

2011年11月5日作成

～ 地域のこれからを考えよう 特色ある復興計画づくり ～

現在大槌町では、碓川町長のもと平成23年12月を策定目標とした「大槌町震災復興計画」の作成に取り組んでおります。町では、町内10地域に「地域復興協議会」を立ち上げ、この協議会を通じて、現状や課題を踏まえた未来像を議論して頂き、復興計画に反映させていくこととしております。

平成23年10月29日（土）、30日（日）の2日間にわたり、8地域（町方地域、桜木町・花輪田地域、小枕・仲松地域、沢山・大ヶ口地域、安渡地域、赤浜地域、吉里吉里地域、浪板地域）の2回目の復興協議会が開催されました。

第2回目では、「復興パターン（案）を検討する」をテーマに、各地域をさらに細かくグループ分けし、車座形式の議論を行いました。事務局側から提示された復興パターン案を叩き台として、地域ごとの将来像について意見を出し合いました。

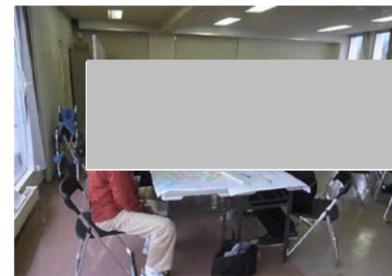
参加された町民のみなさんからは、地域の実情に合った防潮堤、盛土造成、高台移転のあり方について多くの意見が出されました。また、公共施設の配置、避難道の位置や形状、住宅の建築方法など具体的なアイデアも多く出されました。このかわら版は、その内容を町民のみなさんにお知らせするために作成したものです。

大槌町地域復興協議会 第2回地域別協議会の開催結果

- |  |                               |                |           |
|--|-------------------------------|----------------|-----------|
| ①第2回町方地域復興協議会【新町、大町、本町、末広町、須賀町、栄町、上町】    | ○日時：平成23年10月29日（土）13:30～15:30 | ○場所：中央公民館大会議室  | ○参加者：約80名 |
| ②第2回桜木町・花輪田地域復興協議会【桜木町、花輪田、白沢】           | ○日時：平成23年10月29日（土）13:30～15:30 | ○場所：中央公民館第一会議室 | ○参加者：約40名 |
| ③第2回小枕・仲松復興協議会【小枕・仲松】                    | ○日時：平成23年10月29日（土）13:30～15:30 | ○場所：中央公民館婦人室   | ○参加者：約12名 |
| ④第2回沢山・大ヶ口地域復興協議会【沢山、大ヶ口、源水、迫又、柁内、前段、和野】 | ○日時：平成23年10月29日（土）13:30～15:30 | ○場所：中央公民館武道館   | ○参加者：約20名 |
| ⑤第2回安渡地域復興協議会【安渡、港町、新港町】                 | ○日時：平成23年10月29日（土）9:30～11:30  | ○場所：安渡小学校体育館   | ○参加者：約70名 |
| ⑥第2回赤浜地域復興協議会【赤浜】                        | ○日時：平成23年10月30日（日）9:30～11:30  | ○場所：赤浜小学校体育館   | ○参加者：約60名 |
| ⑦第2回吉里吉里地域復興協議会【吉里吉里】                    | ○日時：平成23年10月30日（日）9:30～11:30  | ○場所：吉里吉里中学校体育館 | ○参加者：約70名 |
| ⑧第2回浪板地域復興協議会【浪板】                        | ○日時：平成23年10月30日（日）13:30～15:30 | ○場所：浪板交流促進センター | ○参加者：約30名 |



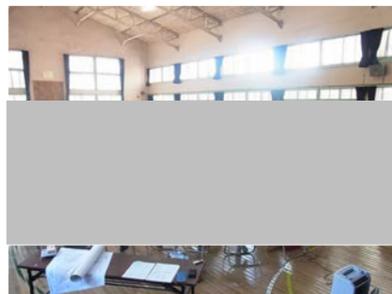
【町方地域 個別討議の様子】



【桜木町・花輪田地域 個別討議の様子】



【沢山・大ヶ口地域 個別討議の様子】



【安渡地域 全体討議の様子】



【赤浜地域 全体討議の様子】



【浪板地域 全体討議の様子】

第2回町方地域復興協議会の概要

（協議会全体として方向性）

- 防潮堤の高さについては、T.P. 14.5m（県が示した最大値）を推すグループもあったが全体的にバラつきがあり、安渡・赤浜地区との調整が必要との意見があった。
- 町の景観及び防潮堤を嵩上げた際のコンクリートの耐久性やメンテナンス等も考慮し、慎重に検討すべきとの意見も挙げられた。
- 安全な高台への移転を求める声もあるが、歴史のある市街地を残すべきであり、町の核とすべきという意見が多かった。
- 海との関わりがある、自然と共生できる街をつくりたいという意見もあった。
- 須賀町・栄町は、パターン案では非居住地域となっているが、具体的な移転先等を示してほしいとの声が多かった。また、多少のリスクがあっても元の場所に住みたいとの意見もあった。
- 高齢化も進んでいることから、高齢者がすぐに避難できるようなまちづくりをしてほしい。
- 町の中心部のどの場所からも城山に通じることができる避難道の整備や、町方地域の主要箇所の避難ビルの整備を求める声があった。
- 渋滞による犠牲者を防ぐため、避難訓練の徹底や道路の拡幅も必要との意見が多かった。

第2回桜木町・花輪田地域復興協議会の概要（11月2日の独自開催の内容も含む）

（協議会全体として方向性）

- 防潮堤の高さについては、T.P. 14.5 mという意見でほぼ一致していた。
- 小鏡川河川堤防の嵩上げ、支流水門の整備、排水設備の充実を求める意見が多く挙げられた。
- 桜木町地域は、桜木町保健福祉会館が浸水したことから、避難施設（高台あるいは避難ビル）、城山に繋がる避難道の整備を求める意見が多かった。また、山火事になった場合の対策も必要との意見も挙げられた。
- 花輪田地域は、現在の生井沢仮設住宅集会所の活用等も含め、同場所への避難施設の整備と孤立を防ぐため、寺野地区へ抜ける避難道路の整備を求める意見があった。

（個別意見・アイデア）

- 神社裏側の斜面地に倒壊の恐れのある樹林があり、県が伐採を予定している。その場所を利用して一時的な避難場所を整備し、さらにその上にソーラー発電や冬季の避難にも耐えうる設備を備えた備蓄倉庫を整備する。
- 白澤橋も老朽化していることから、桜木町と花輪田を結ぶ新たな橋梁を設置し機能を強化する。
- 寺野の仮設小中学校は、現在の場所で本復旧しても良いのではないかと。体育施設も近隣にあるので活用が可能であろう。一般町民向けの体育施設は、町方の小鏡川沿いの公園緑地候補地に建設しても良いのではないかと。
- 津波の力を一つの構造物（防潮堤）で押さえることは難しいのではないかと。国道45号線とJR線も嵩上げを行うことも視野に入れてほしい。

第2回小枕・仲松地域復興協議会の概要

（協議会全体として方向性）

- 高台移転の希望者が多く、防潮堤は現状維持との声が多かった。また、同じ高台移転でも「小枕地域の高台」、「他地域の高台」移転を希望する意見に別れた。
- 元の場所に居住したいという意見もあった。その場合、堤防の嵩上げは行わず、小枕地域で被災しなかった山側に残る2軒の家の高さに合わせて、居住希望者分の面積だけ盛土するという案が出された。合わせて孤立を防ぐため避難道の整備との意見があった。

（個別意見・アイデア）

- 小枕・仲松は町の中心からは離れているが、町の中心へのアクセスは良く、本当に便利な場所だった。町の中心部に人が住まないエリアが出来る場合、町の中心部から分離されることが心配である。通学や通勤の際、暗くなるのではないかと。
- 小鏡川右岸の林道沿いに住宅開発をすれば、国道と繋がることで集落が孤立することもなくなるのではないかと。現在は林道になっているので、道路の整備を行ってほしい。
- 避難場所については、現在の役場付近（大槌小）を中心に車で登れる広い場所を用意して欲しい。また、大町や新町側からもこの避難場所に車で逃げられるようにして頂きたい。
- 大槌町の町方は度々大火にも見舞われてきたので、物見櫓のような町方を見渡せる高いタワーがあると良い。
- 仲松地区の参加者が1名であり、独自開催等により仲松地域の議論が必要であるということとなった。

## 第2回 沢山・大ヶ口地域復興協議会の概要（11月3日の独自開催の内容も含む）

（協議会全体として方向性）

- 防潮堤の高さについては、沢山地区の意見にはバラつきがあるが、源水・大ヶ口地区はT.P14.5mという意見が多かった。
- T.P14.5mの防潮堤を設置する場合、防潮堤上部に2車線道路を設け、赤浜～小枕間を通す。また、魚市場にもアクセスできるようにする。さらに同様の道路を大槌川の河川堤防にも拡幅して設け、そのまま三陸縦貫道インターまでアクセスできるようにすれば、経済面や避難面等をはじめ、多様な効果が期待されるという意見が挙げられた。
- 大槌川の河川堤防の嵩上げ、源水川の水門の改修及び大ヶ口川への水門の新設が必要との意見があった。
- 大槌川北側の国道45号線バイパスが低くなっているため嵩上げが必要であり、バイパス下にあるトンネルから浸水するため、水門が必要との意見があった。
- 沢山地区は集落も点在しており、孤立を防ぐための避難道の整備と三陸縦貫道インターの有効活用、大ヶ口地区では城山に通じる林道の拡幅が必要との意見が多い。
- 被災した町内の小中学校については、大槌高校付近に小中一貫校として整備すべきであり、大ヶ口と沢山を繋ぐ橋の建設など、通学路や避難道の整備が必要との意見があった。

## 第2回 安渡地域復興協議会の概要（11月4日の独自開催の内容も含む）

（協議会全体として方向性）

- 防潮堤の高さについては、T.P.14.5mという意見でほぼ一致していた。
- 基本的に低い場所については居住以外の利用の仕方をするという考え方であり、高台移転の希望が主となっている。大きな方向性として、『海が見えるようにしたい』という、安渡らしい意見が多かった。
- 安渡地域の山は、急斜面の地形が多いため、高台移転を希望したとしても居住地のスペースが足りないのではないかという心配が多く、もっと大胆に切土をする案や集合住宅を高層化する案などが出された。

（個別意見・アイディア）

- 新しい安渡の中心部として、国道筋を開発してはという意見があった。
- 防潮堤の場所について、新港町側の設置位置をもっと海側にすることで堤内地をもっと広くできないか。
- 船着き場を早く直さないといけない。港の整備が必要である。
- 山をまるごと削って居住地にするような、大胆なことをしないと、居住地が足りないのではないか。
- 金銭的に家を建てられない人もいるので、公営の集合住宅も是非用意して頂きたい。
- 5年～10年のことを考えるのではなく、30年～40年のことを考えて、大胆にやった方がよい。復興交付金という予算がつく中で、できるだけ多くの整備をすべきではないか。

## 第2回 赤浜地域復興協議会の概要

（協議会全体として方向性）

- 10月26日、「赤浜の復興を考える会」による赤浜地区震災復興計画案が町へ提出され、町長をはじめとする町幹部に模型を使っでの具体的な説明が行われた。
- 赤浜地区の復興計画案には、災害に強い人造り、県道釜石吉里吉里線の路線変更、大規模避難道や蓄電設備等のインフラ整備、漁港及び公営住宅の建設等の12項目が盛り込まれている。また、現況堤防は修繕復旧とし、高台移転地の側面に海拔15～18mの擁壁を設けるとしている。
- 今回はそれに対する改善案を提示し、今後も継続して復興を考える会の案をベースに、詳細な議論を進めていく。

（個別意見・アイディア）

- 地域住民がコンパクトに（バラバラにならないように）住むことができればよい。
- 高台の公共施設には、老人介護施設、公民館、児童館、役場出張施設等を設置し地域のコミュニティの核施設となるものとする。また、ヘリポートを完備することも良い。この公共施設には、避難道が整備させることが重要である。
- 赤浜地域に限らず大槌には、湧水や井戸が多くある。地域の資源として活用できないものか。また、他にも資源となりえるものは多いと思うので掘り起こしと活用を行い、観光資源としてくべきである。
- 火災時や断水時には、井戸や湧水が役に立つ。普段からの利用とともに非常時のためにも残すべきである。

## 第2回 吉里吉里地域復興協議会の概要

（協議会全体として方向性）

- 防潮堤の高さについては、12.8m（県が示した最大値）という意見が多かった。
  - 子どものため、環境・観光のためにも砂浜を戻してほしい、残してほしいという意見はほぼ全会一致。吉里吉里地区にしかない、風光明媚な景色を大切にしていきたいという意見が多い。
  - 細かい修正はあるが、低地部分は嵩上げし、収まりきらない部分は高台移転という考え方が主となっている。移転先としては、B&Gプール下の道路付近に二線堤を設置して、後背地を活用すべきとの意見があった。
  - 一戸あたりの必要面積や、避難路をはじめとする道路拡幅についての意見が多く、今回の修正パターン図に反映する。
- （個別意見・アイディア）
- 河川の水質調査をし、民家の汚水をキレイにして海に流すなど、水質にも配慮してもらいたい。
  - 一軒辺り50坪では狭すぎる。昭和初期とは違うので、車3台が駐車できるよう、80坪は欲しい。駐車場についても3世帯分くらいを集約して共用するのも構わない。
  - 生活道路が狭く、住居が密集しすぎると通行が危ない。歩行者への配慮も必要である。高台に住宅地を移転する場合も、道路の拡幅は必要になるのではないか。

## 第2回 浪板地域復興協議会の概要

（協議会全体として方向性）

- 浪板の代名詞とも言える浪板海岸の砂を戻してもらいたいという意見は全会一致。線路より海側は緑地公園とし、防潮堤は嵩上げせず、高台移転と被災地域の一部を盛土し、宅地又は民宿等の商業地を造成する案が主となっている。合わせて高台へ通じる避難道及び仮設住宅跡地への公営住宅の整備が必要との意見が多い。
- 鉄道沿いに土波堤防をつくり、既存の山側の道路を拡幅し、国道45号と接続して地区幹線を整え、被災エリアは農地・公園・キャンプ場等として整備する。また、今後整備される浪板地区の中心部を考慮し、駅を移設することを検討してはとの意見も挙げられた。
- 高台移転の際は、土石流が心配であり具体的な説明が必要との声が多い。
- 三陸縦貫道のルート変更を求める意見があったが、都市計画決定されているため現実的には難しい。緊急時に縦貫道にアクセスできる道路を整備してほしいとの意見があった。

（個別意見・アイディア）

- 浪板の生活道路である表参道(鯨山へと続く道路)を縦貫道で分断しないよう、つないで欲しい
- 盛土などを行って、できれば浪板川沿い（JR線の奥側）にも住みたい。

## ★ 開催案内

第3回地域復興協議会及び第4回地域復興協議会は以下の日程で開催します。

協議会名	第3回 日時	第4回 日時	場所
町方、桜木町・花輪田、小枕・仲松、沢山・大ヶ口地域復興協議会	11月12日(土)13:30～	11月26日(土)13:30～	城山体育館
安渡地域復興協議会	11月12日(土)9:30～	11月26日(土)9:30～	安渡小体育館
赤浜地域復興協議会	11月13日(日)9:30～	11月27日(日)9:30～	赤浜小体育館
吉里吉里地域復興協議会	11月13日(日)9:30～	11月27日(日)9:30～	吉里吉里中体育館
浪板地域復興協議会	11月13日(日)13:30～	11月27日(土)13:30～	浪板交流促進センター

※小鎚地域復興協議会と金沢地域復興協議会は11月12日が第1回、11月26日が第2回の地域復興協議会となります。
小鎚地域復興協議会→主たる対象者は、震災前に蕨打直、一の度、種戸、徳並、長井にお住まいだった方です。
金沢地域復興協議会→主たる対象者は、震災前に下屋敷、対間、戸保野、安瀬の沢、中川原、中山、戸沢にお住まいだった方です。

協議会名	第1回 日時	第2回 日時	場所
小鎚地域復興協議会	11月12日(土)9:30～	11月26日(土)9:30～	小鎚多目的集会所
金沢地域復興協議会	11月12日(土)9:30～	11月26日(土)9:30～	金沢支所